

# 論文内容要旨

KL-6, a Human MUC1 Mucin, as a prognostic marker for diffuse alveolar hemorrhage syndrome.

(びまん性肺胞出血症候群における予後因子としてKL-6の有用性についての検討)

Orphanet Journal of Rare Diseases, 7:99, 2012

主指導教員：谷川 攻一 教授  
(応用生命科学部門 救急医学)

副指導教員：河野 修興 教授  
(応用生命科学部門 分子内化学)

副指導教員 廣橋 伸之 准教授  
(応用生命科学部門 救急医学)

木田 佳子

(医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻)

## 背景と目的

びまん性肺泡出血症候群 (Diffuse alveolar hemorrhage syndrome:DAH) は、様々な原因で引き起こされる致死的な症候群である。DAHにおいて感度の高い予後予測マーカーは現時点では存在しない。血清 KL-6 値は様々な間質性肺疾患 (ILD) の病勢や予後の診断に有用なバイオマーカーとして知られている。そこで我々は、DAHにおける KL-6 の予後因子としての臨床的有用性について検討した。

## 対象と方法

我々は 2004 年から 2011 年に広島大学病院集中治療病棟 (ICU) へ入室した患者のうち DAH と診断された 41 人の患者をレトロスペクティブに抽出した。予後、年齢、性別、KL-6 を含む検査所見、画像所見、人工呼吸器設定、治療について比較検討を行った。

## 結果

血清 KL-6 値のベースライン値とピーク値は生存者に比して非生存者の方が有意に高かった。入院後の血清 KL-6 値の上昇は Oxygenation Index の悪化と関連していた。また、血清 KL-6 値のベースライン値とピーク値がより高値であるほど、死亡率が高かった。血清 KL-6 値のカットオフ値を 700U/mL と設定すると、死亡予測の感度、特異度、正診率は、それぞれ 75%、85%、78%となった。多変量解析では、血清 KL-6 値のピーク値が 700U/mL 以上であることが、DAHにおける唯一の独立した予後不良因子であることが証明された。

## 考察

血清 KL-6 値のピーク値 700U/mL 以上は、びまん性肺泡出血症候群において、予後不良を予測する有用なバイオマーカーになる可能性が示唆された。